

カリキュラム概要

専攻長あいさつ

本学教職大学院は、鹿児島県の地域に根ざし、鹿児島県の教育の特色を活かして、鹿児島県の教育の課題に取り組んでいくことを目指して、開設されました。

鹿児島県は、南北600kmという広範囲な地域の中に、多様な自然や文化を有しており、教育を展開していく上でたくさんのリソースを持っています。その一方で、広範囲ゆえに、学力保障や特別支援などの教育により多くのコストがかかるという地域特有の課題も抱えています。

そこで、本学では、こうした教育課題を解決するだけでなく、教育にかかる新たな知を生み出すために、教員スタッフと学生とが協働して、主体的で対話的で深い学びの実現に向けた環境を作っていきます。そして、こうした環境で学んだことを、県内の各学校に波及させていくことを目指します。

皆さんも私たちと一緒に、鹿児島大学教職大学院で学びませんか。



学校教育実践
高度化専攻
専攻長
溝口和宏

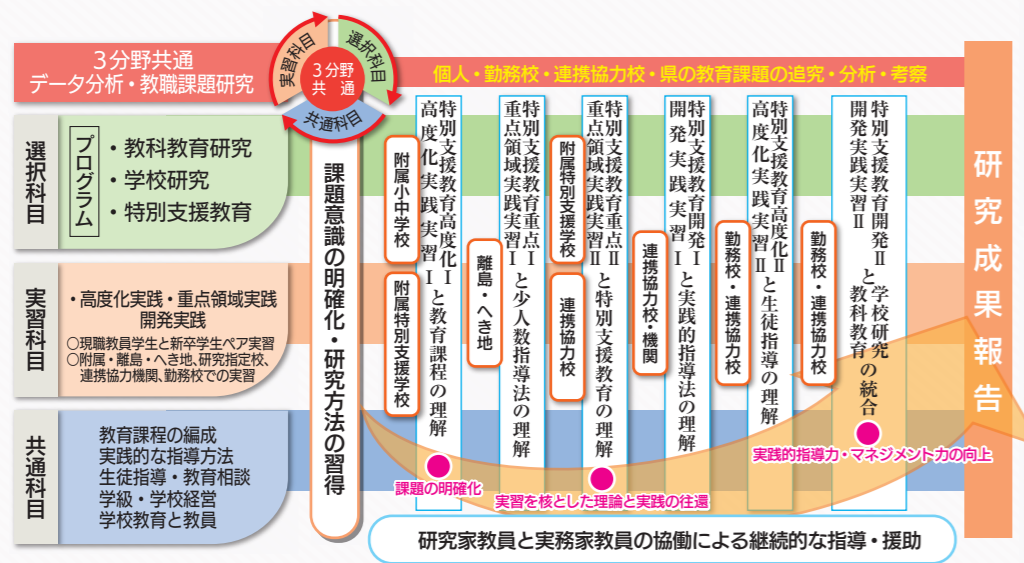


教職大学院とは

高度専門職業人としての教員の養成を目的とする専門職大学院です。指導力・展開力を備え、様々な教育課題に取り組む新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員や、確かな教育理論と優れた実践力・応用力を備え、地域や家庭と連携しつつ学校において指導的役割を果たしうるスクールリーダーとしての中核的教員の養成を目的としています。

教職大学院の特色

【鹿児島大学教職大学院 実習科目と各科目の関連】



令和3年度入学生

私は「特別支援教育をもっと学びたい」という思いと、自分の授業力に課題があると感じていたため教職大学院に入学しました。教職大学院の魅力は、学部卒院生と現職教員院生が共に高め合いながら学べるころだと思っています。経験豊富な現職教員院生と学ぶことで、大学院卒業後の自分を意識しながら講義を受けたり、実習をしたりすることができました。また、教職大学院では1年次と2年次の実習を通して、理論と実践の往還を行いながら自分の実践を省察します。院生や先生方と省察を行い、さらによりよい授業実践に繋がっていく実感をえました。教師としてさらに成長したい方、ぜひ教職大学院へいらしてください。



中野 佑香
(学部卒院生)

新学習指導要領や観点別評価のことなど、まだまだ学びたいことがたくさんあったため現職教員ながら大学院に入学しました。1年目は異校種・異年齢の仲間達と各講義内で問われたことについて、対面・オンライン関わらず講義外で毎時間ごとに集まり、協働し解決することで各自の学びと絆を深めていきました。このことは、私の教員人生にとってかけがえのないものとなりました。2年目は現場に戻り、教科指導について探究しました。1年目に自分自身で協働活動を経験したことは、生徒に協働活動をさせる際の助けとなりました。仕事の中だけでは経験できない学びが教職大学院にはあります。自分の新たな可能性を開くために多様な人達と一緒に、教職大学院で学びませんか？



太田 亮
(現職教員院生)

(令和5年1月20日逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。)

本学カリキュラムの特徴

本学教職大学院では、3種類の学修プログラムを準備しています。学生の興味、関心および目的に応じて、3種類の学修プログラムからどれか一つを中心としたカリキュラムを履修します。以下に3種類の学修プログラムおよび授業科目を紹介します。

(1) 教科教育(教授-学習)研究プログラム

各教科の授業設計や実施、評価に代表される授業デザインの開発および授業研究のテーマと手法といった特定の教科についての指導のあり方を中心とした内容です。

(2) 学校研究プログラム

本プログラムは2種類の内容から構成されています。一つ目は学校の組織・経営および校内研修の運営に関する内容です。二つ目は学習、学力、特別活動、生徒指導に関する内容です。

(3) 特別支援教育プログラム

特別支援教育および発達障害に関する知識と指導方法に関する内容です。また特別支援教育のコーディネーター、特別支援学校や特別支援学級のあり方についても学びます。

授業科目一覧

【教科教育(教授-学習)研究プログラム】

- ・社会科・地理歴史科指導法の省察と開発
- ・特別の教科道徳の授業デザイン論
- ・次世代型教育コンテンツの開発Ⅰ・Ⅱ
- ・特別活動の理論と実践 他

【学校研究プログラム】

- ・学校の安全・安心と危機管理
- ・グループダイナミクスからみた学級経営
- ・学校研究の手法と実践
- ・いじめ・不登校への組織的対応 他

【特別支援教育プログラム】

- ・発達障害サポートシステム開発
- ・発達障害の医療と支援
- ・障害児の心理的理解と支援
- ・知的・発達障害指導法 他



【教育課程の編成・実施に関する領域】

- ・学校を基盤とするカリキュラム開発
- ・特色ある教育課程とそのデザイン
- ・特別支援教育とカリキュラム・マネジメント

【教科等の実践的指導方法に関する領域】

- ・教材研究、指導方法、評価に関する実践的課題とその改善
- ・ICT活用と授業デザイン
- ・特別支援教育の授業デザイン

【生徒指導・教育相談に関する領域】

- ・教育相談の方法と実践
- ・学校における生徒指導の実践と課題
- ・発達障害児の心理臨床

【学級・学校経営に関する領域】

- ・学級経営の実践と課題
- ・自律的学級経営の理論と実践
- ・特別支援教育と学校経営

【学校教育と教員のあり方に関する領域】

- ・学校教育の役割と教師の成長
- ・鹿児島県における学校教育と教員のあり方
- ・インクルーシブ教育における教師の専門性

令和4年度入学生

研究授業以外は、「なんとなく」実践を重ねていく。学校の課題を「なんとなく」把握し対処する。初任期中から中堅期へとシフトしていく自分の中には、「なんとなく」の理論や経験ばかりでした。そこで「理論と実践の往還」をコンセプトに掲げる鹿児島大学教職大学院に進学しました。「なんとなく」抱えていた問題意識に理論を当てはめて、確かな見通しが持てる。「なんとなく」効果的だった実践を理論的にひも解いてみる。他の院生の実践が大きなヒントになる。様々な教育現場に向かい、新たな気づきを得る。そして、鹿児島県の教師としての自らの在り方を問い直す。分かっていながらできずにいることが、教職大学院ですべて実現できます。心からワクワクする毎日が待っています。是非、教職大学院への進学をご検討ください。



大隅 佳甫
(現職教員院生)

「主体的・対話的な深い学び」を実現するためにどのように学習指導を行なえばよいのか、生徒指導や特別支援、地域や社会、保護者との連携などにはどのように向き合えばよいのか。教育に関するさまざまな実践力と応用力を身に付けたいと思い、大学院に進学しました。教職大学院では専門的な講義やさまざまな実習が行われ、どの活動でも現職・新卒院生が語り合って気づきを得られる学びがあります。1年の学びを通して、自分の教師観や授業観、生徒観、学校観などが広がったり深まったりしていることを実感しています。優しく、的確で専門的なご指導をしてくださる先生方と、同じ目的や目標を持つ院生が教職大学院で待っています。ぜひ一緒に学びを深めましょう!



岩元 涼夏
(学部卒院生)

鹿児島大学教職大学院の概要



○ 修了年限	2年
○ 修了要件	46単位以上
○ 学位	教職修士（専門職）
○ 取得免許	小学校・中学校・高等学校・幼稚園教諭専修免許状・特別支援学校教諭専修免許状（知・肢・病）・養護教諭専修免許状
○ 入学定員	20名
○ 長期在学履修制度	教職大学院に3年間在籍しながら、小学校教諭の免許状を取得できる制度です。小学校教諭の免許取得に必要な学部の授業（教育実習を含む）と、修了に必要な大学院の授業を計画的に履修することで、課程を修了することのできる制度です。
○ その他	出願書類や選抜方法等の詳細は、募集要項でご確認ください。

*専修免許状の取得には条件があります。詳細は募集要項でご確認ください。

鹿児島大学 教職大学院

鹿児島大学大学院教育学研究科
学校教育実践高度化専攻

受験日程の概要

1 募集要項配布

7月中旬頃から、鹿児島大学教育学部教務係にて直接受け取り、又は郵便で請求できます。詳細は鹿児島大学教職大学院のホームページで確認ください。

郵便で請求する場合は、封筒に「教職大学院募集要項請求」と朱書きし、返信用封筒（角形2号封筒に210円切手を貼付、速達の場合は470円切手を貼付）に住所、氏名、電話番号を明記したものを同封し、下記宛に請求してください。

2 入試願書受付

募集要項に記載された、入試願書受付の日程を確認下さい。

3 入学試験及び合格発表

入学試験等詳細は、募集要項ならびに鹿児島大学教職大学院のホームページで確認下さい。（二次元バーコードを参照→）



お問い合わせ・募集要項請求先

〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-20-6

鹿児島大学教育学部教務係

TEL : 099-285-7713 FAX : 099-285-7735

E-mail : edukyomu@kuas.kagoshima-u.ac.jp

URL : <http://www.edu.kagoshima-u.ac.jp/>